

パンデミックと社会関係についての研究アジェンダ（メモ）

2020/9/17 山内直人

1. 様々な論点

新型コロナウイルスのような感染症の大規模蔓延（パンデミック）は、社会関係を含む経済社会システムにも大きな影響を与える。

- ・利他性・利己性の程度がパンデミック下の人間行動に影響を与える可能性
マスク、手洗い、外出規制など、自身のためでもあるが（利己性）、同時に他人のためでもある（利他性）
- ・感染の広がりが、家族関係、交友関係などの社会関係のあり様によって変わる（大家族と核家族、交友関係の濃密さ、面会頻度・時間・距離など）
- ・社会的監視の程度や方法が人間行動に影響を与える（たとえば自粛警察、近隣の相互監視など）
- ・政府による規制の効果が、社会行動様式や自発的な行動抑制などによって異なる可能性。
- ・感染症が、年齢、性別、人種などによって、感染率、重症化率、死亡率などに異なる影響を与える可能性がある。
- ・パンデミックが所得階層、職種、産業などによって異なる影響を与えることにより、所得・資産格差を拡大させる可能性がある。

2. 実証のためのデータ

- ・クロス・セクション（国別、州別、都道府県別・・・）×時系列（月別、日別・・・）
- ・発症数、死亡数、重症数・・・
- ・個人・世帯単位のサーベイ：まだほとんどないが今後実施される可能性

3. 学会としての取り組みの可能性

- ・年次大会での特別セッションの設定
- ・研究会での発表などを通じた知見の共有
- ・学会としての独自サーベイ